

石川県立航空プラザ

大型遊具点検業務仕様書

1. 対象施設

プレイエリア（飛行機型大型遊具、雲型クッション遊具含む）

日常点検 一式

定期点検 一式

2. 日常点検

- （１）受託者は、日常業務の中において目視、触診、聴診などにより、施設の変形や異常の有無を点検すること。
- （２）構造部材についてはぐらつきや、腐食、腐朽が進みやすい基礎部分の状態などに、また、消耗部材については、部材の脱落・消失、破損がないか、変形や摩耗の有無、度合いなどのに着眼して行うこと。（表１「日常点検の着眼点」参照。）
- （３）変形及び異常を発見した場合には、直ちに遊具の一部又は全体の使用中止の処置を講ずるとともに、必要に応じて遊具の構造や点検に関する専門的な知見、技術を有する専門技術者による点検を行うこと。
- （４）日常点検にかかる消耗品及び軽微な故障部品等の交換は、受託者の負担において実施すること。

3. 定期点検

（１）定期点検内容

ア．点検作業員は、一般社団法人日本公園施設業協会の認定する公園施設製品安全管理士の監修のもと、公園施設製品整備技士による専門技術者が実施すること。

イ．遊具の安全性の点検を、目視、触診、打診、聴診、寸法・位置の計測等、用具・計測機具を用いて行う点検業務で、遊具の変状や異常の有無を確認すること。

各遊具別点検箇所・点検内容について、着手前に受託者と協議し決定すること。一般社団法人日本公園施設業協会の規定する「規格基準」との適合性と製品の劣化状況の点検を行う。また、軽作業（ボルト締付け等）で行える改善作業は点検と合わせて実施すること。

ウ．施設の腐食防止、美観保全を目的とした塗装状況の点検を（主に鉄製遊具）、

目視にて、塗装状況を判断すること。

エ. 点検対象遊具に「使用禁止の緊急処置が必要」と判断される状況があれば、二次的な事故を防止するとともに、当該遊具が使用できないように「使用禁止」表示を講じ、安全ロープ、ネット、コンパネ等で利用者が完全に使用できないようにするとともに受託者に報告すること。

なお、使用禁止措置は、子供のいたずらや風等で簡単に外れないようにすること。

(2) 点検表の作成

ア. 基本事項

- ①施設名
- ②施設設置場所
- ③点検会社
- ④点検確認者名
- ⑤点検日
- ⑥安全管理士
- ⑦製造社名
- ⑧設置年月日、経過年月
- ⑨対象年齢（対象年齢シール確認）
- ⑩落下高さ
- ⑪機能部分の総合判定
- ⑫塗装部分の総合判定
- ⑬ハザード
- ⑭劣化
- ⑮特記事項（点検考察）

イ. 安全領域

- ①遊具の安全領域の広さが確保されているか。
- ②安全領域内の安全は確保されているか。

ウ. 劣化

- ①構造材料別
- ②構造部署別

エ. 基準

- ①基準一般規定
- ②基準個別規定

オ. 判定基準の作成

点検報告に基づき、遊具の安全性について以下の基準により判定を行うこと。

- ①安全領域・・・ハザードランクに分ける
- ②劣化・・・材料別・部署別で作成する
- ③基準・・・ハザードランクに分ける
- ④機能部分における総合判定・・・劣化判断と基準判定の関連表
- ⑤塗装の部分における総合判定・・・判定表を作成する

a. 劣化診断評価

劣化の点検評価については下記の４段階にて評価を行う。

A:健全であり、修繕の必要はない。

B:やや劣化、及び磨耗の兆候があるが、現状では修繕の必要はない。

C:部分的に劣化、及び磨耗あり、計画的な修繕を要する。

D:重要な部分に異常、又は全体に老朽化があり、至急対策が必要

b. 塗装診断評価（部分塗装）

I:現状は再塗装の必要はない

II:部分的に再塗装が必要

III:全体的に錆・塗装の剥離があり、再塗装が必要

IV: 錆・塗装の剥離が著しく、使用に支障をきたす。腐蝕度調査の上至急再塗装が必要

(3) 安全点検作業結果報告

ア. 点検結果については、公園施設製品安全管理士が監修し安全性の評価判定を行うこと。(不的確な写真は撮り直しとする)

イ. 安全点検終了後、点検結果総括表及び施設毎の点検調査報告書を作成し、作業写真とともに速やかに受託者へ提出すること。また、報告書及び写真は電子データ（CD-ROM 等）に記録して提出すること。

ウ. 安全点検作業の結果、修繕が必要のある遊具の修繕見積り内訳書を作成すること。

エ. 報告書提出部数は、製本２部とする。

(4) 点検回数

定期点検期間中に１遊具につき１回点検するものとする。

(5) 点検作業中の軽微な修繕

遊具点検中に打診等により塗装等を傷つけた場合の補修や点検中に確認されたボルト緩みの締め直し等は、軽微な修繕として点検業務内で行うこと。

(6) 点検済みの表示

点検結果により、異常なく使用できる遊具については、一般社団法人日本公園施設業協会の発行する「点検済」シールを張り、写真撮影を行い報告書へ添付すること。

(7) その他

ア．定期点検業務の実施にあたっては、施設利用者の安全確保に十分配慮すること。

イ．作業中は、作業態度、服装、公園利用者に対する言動等に十分な注意を払うこと。

ウ．定期点検業務に際して疑義が生じた場合は、受託者と密に連絡を取り協議を行うこと。また、本仕様書に定めがない事項については、「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」を適用すること。

表1 日常点検の着眼点

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・変形 : ゆがみ、たやみ・部分の異常 : 金具、締め具の変形やゆるみ、詰め物の脱落・部材の異常 : ひび、破損、さび、腐食・腐朽、経年による劣化、塗料の剥離・遊具の異常 : 動かない、きしみ、揺れ、摩耗、傾き・欠損、消失 : 手摺や踏み板、保護材等の部材の欠損・消失、金具や締め具等の消失・周囲の異常 : 床の凸凹、エリアの衛生状態、危険物の散乱、基礎部分の露出 |
|---|